



博物館だより

K O B E C I T Y M U S E U M

No.116

2019・秋 リニューアルオープン記念号

- リニューアルオープン特集 ————— P.2~3
- リニューアル記念「神戸市立博物館名品展 —まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—」 P.6~7
- 特別展「建築と社会の年代記 —竹中工務店400年の歩み—」 P.8



スケジュール

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
休館日		1・5・11・18・25	2・9・16・23・24・29・31	1・10・14・20・27	3・10・17・25	2・6・9・16・23・27・30
特別展示室1 (3階)		11/2 ~ 12/22 神戸市立博物館名品展 —まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—		1/11 ~ 3/1 建築の社会と年代記 —竹中工務店400年の歩み—		3/28 ~ 6/21 コートールド美術館展
南蛮美術館室 (2階)		港の歩みを中心に、神戸の歴史と文化を紹介する展示				
特別展示室2 (2階)		11/2 ~ 12/28 銅鐸の謎		1/11 ~ 3/22 幕末の台場築造と地域社会		3/28 ~ 6/21 神戸レトロ名所案内
ホール (1階)		11/2 ~ 12/28 人物表現の洋風趣味		1/11 ~ 3/1 春を祝う 鶴亭とその弟子たち		3/7 ~ 5/5 受贈記念 平井コレクション展
神戸の歴史展示室 (1階)		11/2 ~ 12/28 古地図からみた江戸時代初期の日本		1/11 ~ 3/1 湊町を描く		
コレクション展示【考古・歴史】 (2階)		11/2 ~ 12/28 びいどろ・ぎやまんの名品		1/11 ~ 3/1 建築を飾るガラス		3/7 ~ 5/10 かわいい・びいどろ
コレクション展示【美術】 (2階)		11/2 ~ 12/22 【聖フランシスコ・ザビエル像】実物展示		12/25 ~ 【聖フランシスコ・ザビエル像】複製展示		
コレクション展示【古地図】 (2階)		【桜ヶ丘銅鐸・銅戈群】実物展示				
コレクション展示【びいどろ・ぎやまんの名品】 (2階)						
ザビエル (2階)						
桜ヶ丘銅鐸・銅戈 (2階)						

展覧会情報

コートールド美術館展 魅惑の印象派

会期：2020年3月28日(土)～6月21日(日)

主催：神戸市立博物館、朝日新聞社

NHK神戸放送局、NHKプラネット近畿

後援：プリティッシュ・カウンスル

協賛：凸版印刷、三井物産、日本教育公務員弘済会兵庫支部



エドゥアール・マネ《フォーリー＝ベルジュエールのパーティー》1882年/油彩、カンヴァス ©Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

神戸市立博物館だより No.116 (2019・秋)

発行年月日 令和元年(2019)9月30日

編集・発行 神戸市立博物館

〒650-0034

神戸市中央区京町24番地

TEL. (078)391-0035

FAX. (078)392-7054

神戸市立博物館公式ホームページ

<http://www.city.kobe.lg.jp/museum/>



公式Twitter・Facebook @kobemuseum

神戸市広報印刷物登録 令和元年度第453号 広報印刷物規格A-5類



博物館リニューアル、ここが変わる！

生まれ変わる常設展示

リニューアルで神戸市立博物館の常設展示は、二つの大きな柱で構成されることとなります。一つは、1階北側に集約された「神戸の歴史展示室」。古代から現代まで、神戸の海・港を介して産まれた人や文化の交流について、通時的に学ぶことができます。また、定期的にテーマを変えながら、地域の重要な資料を紹介する「地域文化財展示室」も新設します。

2階の南側には「コレクション展示室」が新設されます。当館には約7万点の館蔵品がありますが、ここでは、テーマごとに館蔵品を鑑賞できます。国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈、聖フランシスコ・ザビエル像の展示室の他に、「美術」「古地図」「びいどろ」・「ぎやまん・ガラス」「考古・歴史」の各分野で、テーマを変えて展示が行われます。

サービス機能の充実

1階の南側には、サービス機能が集約されます。内装や機能が一新された「体験学習室」、厳選された開架図書とともに情報検索の機能も提



ごあいさつ

神戸市立博物館 館長

大谷 幸正

神戸市立博物館は、これからも多くの方々に親しまれ、快適に利用していただくため、開館以来初めてとなる大規模改修工事を昨年3月より実施いたしました。そして、本年11月2日をもって、リニューアルを迎えることとなりました。

当館は次の三つの基本方針を掲げて、今回のリニューアルを実施いたしました。ひとつめは「まちに開かれた博物館」。神戸の歴史を紹介する展示と、カフェ・ショップ、情報コーナーなどのサービス機能を1階に集約し、無料開放いたします。ふたつめは「わかりやすく伝えるための再構築」。当館が誇る所蔵コレクションを常時展示し、神戸の歴史や文化を最新の手法を駆使して発信いたします。みつめは「博物館機能のさらなる充実」。トイレなどのアメニティ設備を大幅に改善し、誰もが居心地良く当館を利用できる環境を整えます。

展示されるリアルな「もの」の存在感を軸に展開される多彩な活動を通して、博物館は、地域の文化振興を担う拠点施設を目指します。これは、神戸市を代表する顔の一つとして、文化的側面から観光交流推進に寄与し、にぎわいを創出することにも繋がります。より一層魅力的な神戸市立博物館の実現を目指して、私たち職員一同は、たゆまぬ努力を続けてまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

供する「情報コーナー」、アール・デコの機能美と、クラシカルな雰囲気味わえる「カフェ・ショップ」など、学ぶことの喜びと、上質なくつろぎが体験できます。

博物館をより身近に

1階部分は、無料開放され、「神戸の歴史展示室」などを気楽に観覧・利用することができます。各フロアのトイレは大幅に改善され、1階にはベビールームも新設されます。

開館時間は、毎週土曜日が午後9時まで延長されます。



外観やホール部分は基本的には従前のままですが、博物館の建築と旧居留地一帯の案内表示が新設されます。

新しい博物館で神戸の歴史に触れてみませんか

神戸の歴史展示室

ついに完成、「神戸の歴史展示室」

令和元年(2019)11月2日(火)、新装オープンする神戸市立博物館。

1階の「神戸の歴史展示室」はどのように完成したのでしょうか。



神戸の歴史展示室

当館の使命の一つは、地域に根差した博物館として、神戸市の歴史やその魅力をお伝えすることです。これまでの常設展示は、昭和57年(1982)の開館当初のものであり、老朽化が進んでいました。そこで、

新しい「神戸の歴史展示室」では、充実した内容で、わかりやすく学んでいただける展示を目指しました。

館蔵資料の活用

まずは、なんとといっても充実した館蔵資料の活用が挙げられます。当館のコレクションは7万点にも及び、神戸の歴史に関する資料も多数収蔵されています。それらを、定期的に入れ替えながら展示するのは勿論のこと、新しい形での資料の活用も目指します。例えば、館蔵コレクションの内でも屈指の点数を誇る近代神戸を写した写真や絵葉書は、その大きさや脆弱さにより展示ケースに並べるだけでは十分にご覧いただけなかったのですが、グラフィックや映像コンテンツに採録することで、細部までお楽しみいただけることとなりました。映像コンテンツの一つとして設けました「神戸立体写真館」では、神戸の風景を写した写真に、最新技術を用いて3D加工を施すことで、立体感が生まれ、まる

その風景に飛び込んだかのようにです。

やさしい映像

「歴史」と聞くと、少し難しいとお思われる方もおられるかもしれません。新しい展示室では、原始、古代、中世、近世、近現代という時代区分ごとに、やさしいタッチで描かれた導入映像が設置されており、皆さまの展示への理解をお助けします。神戸の歴史に触れるのは初めてだけでなく、じっくり展示を見る時間がない、という方は、まずは映像をご覧ください。神戸がどのような歩みを経てきたのか、イメージいただけます。

生まれ変わった展示物

以前の当館のファンの方もご安心ください。これまで常設展示を支えてきた資料の数々も、引き続きご覧いただけます。中でも見どころは、新しく生まれ変わった居留地模型。以前は、ガラスケースの中に納まっていたのですが、その覆いがなくなり、様々な角度からご覧いただくことができます。さらに、模型のいたるところに可愛らしい人形が追加され、にぎやかさがもたらされました。この人形たち、中には実際に居留地で生活していた人物をモデルに作られたものもあります。模型に付



居留地模型の一部

属のデジタルコンテンツでは、実際に模型の中を歩いているかのように探検ができますので、ぜひ探索してみてください。

より気軽に親しみやすく

この「神戸の歴史展示室」を含む、当館の1階部分は、再開以後無料ゾーンとなります。開館時間中ならいつでも気軽に展示をご覧いただくことができます。

豊富な館蔵資料と、その魅力を余すところなく引き出すグラフィックやデジタルコンテンツを通じて、ぜひ神戸の歴史とその魅力に触れてみてください。

(三好 俊)

コレクション展示 美術

人物表現の洋風趣味

令和元年11月2日(土)～

12月28日(土)

江戸時代は「鎖国」のイメージがありますが、実際には中国やヨーロッパの多くの文物が長崎を通して日本にもたらされてきました。これらの中には、人物の容姿を立体感豊かに描いた絵画作品や、人体の成り立ちを詳細に描いた医学書も含まれており、日本人の「人間」を見る眼差しに大きな変化を与えたと思われます。この展示では、江戸時代から明治初期まで、海外からもたらされた様々な視覚表現に影響された日本の人物画に焦点をあてています。



伝大久保一丘「真人図」(江戸時代、19世紀中期)

コレクション展示 古地図

古地図からみた江戸時代初期の日本

令和元年11月2日(土)～

12月28日(日)

中世から江戸時代初期に至るまで、楕円を積み重ねた「行基図」と呼ばれる簡易な日本図が描かれてきました。江戸時代に入ると、徳川幕府は諸国の主要な大名に命じて国ごとの地図(国絵図)を作らせます。この国絵図を集成して日本総図が作成されます。日本総図の情報はどこからか流出し、民間の地図製作に影響を与えていきまし



「日本地図屏風」(桃山時代、16世紀末期～17世紀初期)

春を祝う

鶴亭とその弟子たち

令和2年1月11日(土)～

3月1日(日)



鶴亭筆「墨梅図」(宝暦9～11年「1759～61」頃)

受贈記念 平井コレクション展

令和2年3月7日(土)～

5月5日(火・祝)

コレクション展示 びいどろ・ぎやまん・ガラス

びいどろ・ぎやまんの名品

令和元年11月2日(土)～

12月28日(土)

びいどろ史料庫コレクションをはじめ、当館のガラス工芸コレクションの中から江戸時代から明治時代前期に製作されたびいどろ・ぎやまんの名品を選びすぎります。なかでも、江戸時代後期に、わずか数十年間しか製造されなかった手彫り薩摩切子の輝きは随一です。



手彫り薩摩切子青緑色被せガラス蓋物(江戸時代、1851～58年頃)

限られた情報の中で製造されながらも、西洋製のガラス器にひけをとらない、びいどろ・ぎやまんの名品の美をぜひ会場でお楽しみください。

コレクション展示 考古・歴史

銅鐸の謎

令和元年11月2日(土)～

12月28日(日)

当館の所蔵する歴史資料のうち、国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」に関連した資料を紹介します。まず、銅鐸の石と粘土の casting について解説します。銅鐸発見時には、表面は緑青色のさびに覆われていました。復元製作すると、金色に光り輝く銅鐸ができあがり、私たちが弥生人の見る色のイメージが異なることがわかりました。また、桜ヶ丘銅鐸と同じ casting で作られ、各地に運ばれた「兄弟銅鐸」たちを紹介します。



銅鐸を復元製作

建築を飾るガラス

令和2年1月11日(土)～

3月1日(日)

明治時代以降、西洋文化が生活に採り込まれていく中、ガラス産業においては窓に使用する板ガラスの製造法の確立が急務の一つとされました。ここでは「建築」をテーマに設けて、窓や扉の板ガラス、ガス灯やランプなどの照明器具、ドアノブやステンドグラスなど、建築物を飾るガラスを紹介します。

かわいい・びいどろ

令和2年3月7日(土)～

5月10日(日)

江戸時代のガラスは、今日とは異なる「びいどろ」という呼び方をされています。これはポルトガル語でガラスを意味する「Vidro(ヴィドロ)」に由来します。透明度の低さや、かたちのゆがみなどが目立つ作例もある「びいどろ」ですが、今では魅力の一つになっています。どこかかわいらしい「びいどろ」の魅力にふれてみてはいかがでしょうか。

幕末の台場築造と地域社会

令和2年1月11日(土)～

3月22日(日)

幕末期、大阪湾岸には実に100基を超える台場が築造されています。「台場」とは大砲を備える軍事施設ですが、特に1860年代には西洋の技術を取り入れた大規模な台場が主流になっていきます。幕府は、將軍の武威を国内外に示すため、近代的洋式台場の築造を進めていきます。しかし、そのビックプロジェクトの実現には、地域社会の協力が不可欠でした。この展示では、実物史料をもちいて、その一端を紹介していきます。



湊川砲台写真(明治時代初期)

リニューアル記念
神戸市立博物館名品展
— まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美 —

令和元年11月2日(土) ~

12月22日(日)

【前期】 11月2日(土) ~

11月24日(日)

【後期】 11月26日(火) ~

12月22日(日)

約2年に及ぶ休館を経て、いよいよ神戸市立博物館が再開館します。当館は昭和57年(1982) 11月3日の開館以来、「国際文化交流—東西文化の接触と変容」を基本テーマとして、資料の収集・保存・展示・調査研究に取り組んできました。約7万点に及ぶ所蔵品は、神戸の歴史・文化の魅力と、日本と海外の接触と変容の歴史と美を伝えてくれます。

リニューアルを記念した今回の展覧会では、考古・歴史、美術、古地図の各分野から、当館を代表する所蔵品151件を一室に展覧します。3階・2階の特別展示室だけでなく、一部の展示品は1階「神戸の歴史展示室」や2階「コレクション展示室」において公開されます。全館を挙げた展覧会は、平成20年の「コレクシヨ



長谷川小信(二代貞信)「摂州神戸海岸繁栄之図」(明治4年[1871]) [前期]



A.オルテリウス「世界図」(1587年) [通期]

コレクシヨ展示 桜ヶ丘銅鐸・銅戈



国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」(弥生時代中期、紀元前2~紀元後1世紀)

国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」は、当館所蔵の考古資料を代表するものです。今回のリニューアルでは、2階のコレクシヨ展示において、桜ヶ丘銅鐸・銅戈のすべてを解説映像とともにいつでも間近にご覧いただけます。

1号銅鐸、2号銅鐸に描かれた人物やシカなどの動物、昆虫。4号、

5号銅鐸の人物やシカ・スッポン、イモリなどの動物、水鳥、クモ・カマキリ・トンボなどの虫たち…。その姿は、2000年の時を越えて生き生きと迫ってきます。

弥生人が眼にした風景、人々の姿、そして様々な生きものたちの世界へ、ぜひタイムスリップしてみてください。(阿部 功)

コレクシヨ展示 聖フランシスコ・ザビエル



重要文化財 狩野内膳「南蛮屏風」(左隻)(桃山時代、16世紀末期~17世紀初期) [前期]



「型吹き淡青色六角蓋付ガラス四段重」(正徳4年「1714」箱書き) [通期]

聖フランシスコ・ザビエルとはどんな人だったのか?彼はなぜ日本にやってきたのか?そして、そもそも彼の肖像画がなぜ神戸市立博物館にあるのか?多くの「?」に答える場所として、2階のコレクシヨ展示の一角に、ザビエル像専用の展示コーナーがオープンします。

ここでは、本物のザビエル像を、超薄型ガラスケースで、至近距離から鑑賞することができます。ただし、世界に類例がまったくない貴重なものなので、その展示は年1回、60日間が限度となり、それ以外の期間は、複製品の展示となります。たとえ本物が展示されていなくても、聖フランシスコ・ザビエルとその肖像画に関する、様々な史実に接することができます。

向かって左側の壁面には、ザビエル本人の生涯と、この肖像画の伝来に関連する年表、そしてこの絵が表現する意味内容の概略を図示しています。その詳細をもっと知りたい!と思ったら、右側壁面にある情報画面



解説の一部

の精華」以来、11年ぶりです。神戸で出土した国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」をはじめとする考古資料や、『平家物語』を絵画化した狩野吉信「源平合戦図屏風 一の谷・屋島合戦図」、開港まもない神戸のにぎわいを描いた長谷川小信(二代貞信)「摂州神戸海岸繁栄之図」、当館正面玄関の扉にもあしらわれたオルテリウスの「世界図」、教科書にも掲載される「聖フランシスコ・ザビエル像」や狩野内膳「南蛮屏風」、和ガラスの名品「型吹き淡青色六角蓋付ガラス四段重」など、魅力あふれるコレクシヨを改めてご紹介いたします。

会期中には、記念講演会をはじめ、さまざまなイベントも開催予定です。毎週土曜日の「イブニング・レクチャー」では、展覧会のみどころをご紹介します。土曜日は21時まで夜間開館を行いますので、ぜひ有意義な土曜の夜を過ごしていただくと幸いです。

リニューアルした博物館へ、皆様ぜひともご来館ください。(石沢 俊)

をご利用ください。聖フランシスコ・ザビエルの生涯から帰天にいたる生涯、ザビエル像の細かな部分に込められている意味の数々、ザビエル像の発見から今日に至る伝歴の経緯、そしてザビエル自身が手紙の中で書き綴った日本に関する記述も紹介いたします。

また右側壁面のケースでは、16世紀から17世紀にかけてのキリシタンに関する資料を展示し、ザビエルとその肖像画の歴史背景にもスポットを当てます。(塚原 晃)

特別展
建築と社会の年代記
 竹中工務店400年の歩み

令和2年1月11日(土)～
 3月1日(日)

建築が歴史の中で人とどのように関係性を育み、地域の社会や文化をかたちづくってきたのかをあらためてふりかえろうとする展覧会です。

神戸が創立の地である竹中工務店が、神社仏閣の造営を主な仕事とした工匠時代の作品から現代に至るまでに手がけた多様な建築を紹介いたします。紹介する建築作品は約400、さまざまな関連資料をあわせると1200点を超える内容となる予定です。写真、模型、図面、映像をはじめ、建築に関する歴史や美術資料など多岐にわたる関連資料は、今日まで受け継がれてきた建築の魅力を、幅広い視点から感じていただけることと思われまます。

展覧会の構成は、建築を「はじめりのかたち」、「出会いのかたち」、「はたらくのかたち」、「夢を追うかたち」、「感性を育むかたち」、「暮らしのかたち」、「時を紡ぐかたち」、「みんなのかたち」の八つの「かたち」に分

類し、テーマごとに時代を追って紹介する内容となっております。

「はじまりのかたち」から

竹中工務店の原点を示す工匠時代の建築作品及び古文書、儀式道具や大工道具、あわせて、神戸の地において創立した竹中工務店が、神戸で手がけた戦前の建築とそれに伴う資料を紹介いたします。

「番匠用留」(図1)は、九代竹中藤右衛門が著したものと推定されています。柱割りなどの設計原案や彫物下絵、手間賃など、18の神社建築についての覚書が記されています。内容の重要性は言うまでもありません。



図1 九代竹中藤右衛門(推定)「番匠用留」(年代不詳、竹中工務店蔵)

んが、流れるような筆跡と軽やかな的確なスケッチに、かき手の伸びやかでクリエイティブな魅力が感じられます。

また、本展のために新しく製作する1/1の木組模型、正福寺本堂の「軒周り」の展示は、通常間近に見ることが困難な部分の模型です。模型とは言え建築実寸の「部分」ですから、迫力あるスケールと材質感を体感いただくことができ、彫刻の繊細さや幾何学的造形をまとった機能美の観察、さらには清新な木の香りをお楽しみいただけます。

大正9年(1920)に神戸市中央区の宇治野山に創設された日本初の「海洋气象台」は、市民の関心を集め、美術家たちを惹きつけました。モダン



図2 川西英「海洋气象台」(昭和10年[1935]、当館蔵)



図3 「横浜正金銀行神戸支店(現・神戸市立博物館)新築工事写真(竣工当時)」(昭和10年[1935]、当館蔵)

で親しみのある版面を多数手がけた川西英は、「神戸百景」シリーズでこの建物をとりあげました(図2)。

旧居留地に建てられた横浜正金銀行(図3)は、桜井小太郎の設計です。昭和10年(1935)に完成、平成10年(1998)に国登録有形文化財となりました。正面にドリス様式の円柱をデザインし直線を主とした威容を誇る外観は、不変的で堅牢なイメージを演出し、銀行としての使用目的を美しく体現しています。現在この建物は神戸市立博物館として活用されています。

会期中は、講演会や対談、専門家の案内による建築見学会、子供のためのイベントなどを行います。詳しくは、当館のホームページなどでご確認ください。みなさまのご来館をお待ちいたしております。(辻 智美)

海外展示報告 台湾 故宮南院
交融之美 神戸市立博物館精品展

開港以来、神戸はアジアのハブ港湾都市として発展していきまますが、日本と台湾とのつながりにおいても、たとえば、明治29年(1896)、日台間の初の定期航路が神戸を起点として開設されるなど、重要な役割を果たしました。

いっぽう台湾は、17世紀前半に日本・中国・オランダの交易の中継地であり、現在の台南市にはオランダ商館が建てられていました。歌舞伎や浄瑠璃の題材となった「国姓爺合戦」も、このころの台湾に縁の深い物語です。東西の文化交流の舞台となった台湾南部、嘉義県太保市にある國立故宮博物院南部院區(故宮南院)は、台北の國立故宮博物院の別館として2015年に開館しました。國立故宮博物院は、清朝宮廷に伝わった膨大な文物で知られていますが、これらは純粋な伝統的美術ばかりではなく、西洋美術などの影響を受けた絵画・工芸品も多数含まれています。新設された故宮南院は「アジア芸術文化博物館」の別名のもと、



故宮南院の外観

世界の博物館・美術館と連携して意欲的な活動を展開してきました。当館でも、その池長孟コレクションをはじめとする、対外交流に触発されて生まれた近世美術に深い関心を寄せてきました。

博物館としての相互の関心や方針が一致したことから、神戸市立博物館は、リニューアル工事期間での大規模な館外展示「交融之美神戸市立博物館精品展」を、故宮南院で開催するに至りました。

出品されるのは狩野内膳「南蛮屏風」をはじめとする155件。國立故宮博物院、オランダのアムステルダム国立美術館、デルフトのプリンセンホフ美術館、台湾歴史博物館などからも関連作品・資料が展示され、16〜19世紀の東アジアで繰り広げられた、日本・中国・西洋間の国際交易と文化交流の諸相を紹介する展覧会としては、過去に前例のない国際的な内容となりました。

約1週間の展示作業を経て、6月7日に開会式が盛大に行われ、約150人の報道関係者も詰めかけ、この展覧会への関心の高さがうかがわれました。その後の内覧会では、狩野内膳「南蛮屏風」の前に人だかりができ、その細密描写を食い入るように見つめていたのが印象的でした。

9月8日までの会期は、台湾の夏休み期間ということもあり、特に土日は多くの来館者で賑わっていました。会期を通じての入場者数は約17万人であり、神戸市立博物館の所蔵品展がこれほど多くの方々目に触れたのは前代未聞のことです。当館所蔵コレクションの魅力の世界に向けて発信する貴重な機会となったことは確かです。(塚原 晃)



狩野内膳「南蛮屏風」に集まる報道関係者



18世紀、日本と中国の洋風画の比較展示
 左は故宮蔵の郎世寧筆、右は当館蔵佐竹曙山筆

リニューアルオープン後に大きく変わるのが体験学習室です。

1階の神戸の歴史展示室入り口南側にライブラリカフェや情報コーナーとならんで、体験学習室があります。

この部屋はこどもたちに、神戸を中心とした歴史について、楽しんで学んでもらうことを目的としています。

体験学習室の様子

部屋の南側に窓を設け、明るく室内にしています。天井にはシャンデリアの電灯を吊るし、壁の色とマッチした落ち着いた雰囲気を出しました。

北側と西側の壁面の一部には引き出し収納を設けて、ワークショップで使用する道具類を収め、またこども向けの歴史関係の本を手にとって見ることが出来る本棚を設けました。

神戸歴史年表

北側の壁には神戸の歴史を辿ることができるように、右から左に時代が連続する大きな年表を設けています。年表には大まかな日本の歴史の流

れと共に、神戸で起こった出来事を記し、それに関連する館蔵品などの写真画像を磁気マグネットのシートに印刷して、貼り付けられるようにしました。これはその時代の歴史や館蔵品について説明する時に、適宜貼り付けて使用します。

また、ペルリ（ペリー）の似顔絵を描いた浮世絵を加工して、福笑いにしたものを作り、こどもたちが楽しむコーナーを設けてみました。

歴史の棚

窓際には棚を設け、実物そっくりに復元した土器、土偶などを置き、実際にその感触を確かめることができます。また、復元した銅鐸を吊るし、自由に鳴らすことができます。さらに古代の衣装を棚に吊るして、それを試着するコーナーも設けました。

歴史人物サイコロ・竪穴住居の模型

6個のサイコロの各面に顔の一部が描かれており、絵柄を合わせることで、歴史上有名な人物の顔ができていきます。また、弥生時代の竪穴住居を復元した模型は住居の内部を覗けるように作られています。これらはリニューアル

ル前から使用していた、とても人気のあるアイテムです。

学習支援交流員の活動

体験学習室ではこのようなアイテムを揃えています。こどもたちにねらいどおりに使ってもらうことが必要です。それを導くのが学習支援交流員です。体験学習室の入り口に交流員が詰める部屋を設けて、学習室に来るこどもたちに何時でも、声かけができるようにします。

また、交流員で自主企画したワークショップを体験学習室で適宜行う予定です。

◆今年度の学習支援交流員の募集を11月に行います。詳しくは10月頃に当館ホームページでご案内いたします。

(谷 正俊)



体験学習室の様子

活動記録



7月20日：学芸員と神戸を巡るコースI
文学作品の舞台となった須磨海岸



5月18日：六甲ファミリーまつり
おきしお夢はこが号展示

講座・イベント情報

神戸市立博物館名品展

—まじわる文化、つなぐ歴史、むすぶ美—
関連イベント

○記念講演会

11月2日(土) 歴史 11月9日(土) 美術[工芸]
11月16日(土) 古地図 12月7日(土) 考古
12月21日(土) 美術[絵画]
いずれも14:00~15:30
会場=地階講堂(各日定員160名)
※聴講無料(本展観覧券が必要。当日13:00から講堂前で整理券を配布。)

○リニューアル記念スライドショー

11月3日(日・祝) 14:00~15:30
会場=地階講堂(定員160名)
※聴講無料(当日13:00から講堂前で整理券を配布)

○ジュニアミュージアム講座 **要申込**

①11月17日(日) ミニチュア銅鐸を作ろう
②12月1日(日) 浮世絵摺り師に挑戦!
③12月15日(日) コーヒー染めで作るアンティーク古地図
いずれも10:30~12:30
会場=地階考古学習室
対象=小学4年生から中学生
(定員①16名、②・③各20名)
参加費=500円(付き添いの方は、団体料金割引で特別展を鑑賞していただけます)
申込締切=①11月1日(金)、②11月15日(金)、③11月29日(金) ※1枚のはがきで3名様まで

○未就学児と保護者のための鑑賞会 **要申込**

休館日に、未就学児1名につき保護者2名まで無料で本展を鑑賞いただけます。
11月18日(月) 10:00~12:00
対象=未就学児とその保護者 (定員250組)
申込締切=11月1日(金) 消印有効

○親子鑑賞会

11月24日(日) 午前の部:10:30~12:30
午後の部:14:00~16:00
会場=地階講堂(各回定員50組、当日先着順)
対象=小・中学生とその保護者
参加費=無料(本展観覧券が必要)

▶申込方法

往復のはがきに、希望イベント名と、参加希望者の名前、年齢(子供は学年も)、電話番号、返信用の宛名をご記入のうえ、〒650-0034 神戸市中央区京町24 神戸市立博物館までご送付ください。応募者多数の場合は抽選となります。

※1枚のはがきで複数の講座へのお申し込みはご遠慮ください。
最新の情報は神戸市立博物館公式ホームページ (<http://www.city.kobe.lg.jp/museum/>) をご参照ください。

体験学習室リニューアル記念ワークショップ

○銅鐸Day 11月2日(土)

拓本体験 こすって浮かび出す古代のもよう! 13:00~14:00
紙コップでミニ銅鐸を作ろう 14:00~15:00
古代体験 作ってみよう!コースター 15:30~16:30

○ザビエルDay 11月3日(日)

かみしばい「フランシスコ・ザビエル」
13:00~/13:30~/14:00~(3回)
ザビエルのかけじく作り 14:30~15:30

○古地図&浮世絵Day 11月4日(月・祝)

浮世絵摺り師に挑戦! 13:00~14:00
かみしばい「伊能忠敬」
14:00~/14:30~/15:00~(3回)
伊能忠敬になって歩いてみよう 15:30~16:30
会場=1階体験学習室 対象=小学生以上
参加費=無料

明治居留地音楽会

~さあ、一緒に参りませう~

要申込

明治時代の神戸外国人居留地で演奏されていた曲を声楽とピアノ、オルガンによって再演します。
日時=11月30日(土) 15:00開演
会場=神戸松蔭女子学院大学チャペル(定員200名)
参加費=無料
申込締切=11月6日(水) 消印有効 ※1枚のはがきで1名様のみ

浮世絵観察と浮世絵摺り体験を美術に活かす

要申込

本格的な浮世絵摺り体験を通して、ミュージアムを活用した教育の可能性について考える講座です。
日時=2月1日(土) 10:30~12:30
会場=考古学習室
対象=教育活動に興味のある高校生以上の方(定員15名)
参加費=無料
申込締切=1月17日(金) 消印有効 ※1枚のはがきで1名様のみ